1998 11 15 No. 46

## 主日礼拝順序

（降誕前第 6主日）

11月15日　午前10：15〜11：30

司会　市野瀬翠執事

| | | | |
|---|---|---|---|
| 前奏 | | | 佐々木一美姉 |
| 招詞 | | | 司会者 |
| 頌栄 | 539（起立） | | 一同 |
| 主の祈 | | | 一同 |
| 交読文 | 24（詩100） | | 一同 |
| 讃美歌 | Ⅱ78（起立） | | 一同 |
| 聖書 | エレミヤ15：16 | | |
| | （共旧1206頁／初旧1396頁） | | |
| | マルコ10：13〜16 | | |
| | （共新81頁／初新94頁） | | |
| 牧会祈祷 | | | 岩井牧師 |
| 合唱 | 237(1,2,3) | | 聖歌隊 |
| 説教 | 「言葉を食べる」 | | 岩井牧師 |
| 讃美歌 | 467（起立） | | 一同 |
| 幼児祝福式 | | | |
| 祈祷 | | | 岩井牧師 |
| 讃美歌 | 461 | | 一同 |
| 献金 | | | 一同 |
| 頌栄 | 542（起立） | | 一同 |
| 祝祷 | | | 岩井牧師 |
| 応唱 | | | 聖歌隊 |
| 報告 | | | 市野瀬翠執事 |
| 後奏 | | | 佐々木一美姉 |

## エレミヤ15：16「み言葉を食べる」にちなんで

ことばを食べる、この表現に出会うとどうしても思い出してしまう松居直さん（福音館書店会長）の文章があります。

「1987年に俵万智さんの『サラダ日記』（河出書房）という歌集がベストセラーになりました。……歌はまぶしいばかりの若さと生命感にあふれています。ことばが噴きだしてくるようです。とりわけわたしが強い印象を受けたのは、作者の観察力の鋭さと、何よりもことばに対する感性の豊かさでした。……俵さんは二歳から三歳のころ『三びきのやぎのがらがらどん』（福音館書店）という絵本をそれこそ一日に幾度もお母さんに読んでもらっていました。幼児は好きな物語や絵本を繰り返し繰り返し読ませます。それは一ヵ月、半年と続くこともあります。……幼い俵さんはお母さんが読んでくれる絵本を通して、物語を通して、ことばが楽しみと喜びを与えてくれるものであることを体験しました。ことばを聞く喜びをしったのです。ことばにはみえないものを見るようにし、生き生きとした喜びをもたらしてくれる力があることを、本能的に感じとりました。……ことばは知的なものであるよりも、本来生理的なものです。音声をともなって語られることばは特にそうです。乳幼児にとっては、ことばは頭で記憶したり理解するものでなく、全身全霊で感得するものです。……こうして耳から身体の奥深く入ったことばの喜びは、やがて身体から口をついてあふれ出ます。俵さんは三歳のとき文字をまだ読めなかったのに『三びきのやぎのがらがらどん』の文章を一言半句違わないように語ったと書いています。それは「本を読んだつもりごっこ」だったそうです。……俵さんは特別な子どもでもなく、これこそすべての幼児に、二歳から四歳のころに備えられている不思議な力です。……わたくしは〝子どもはことばを覚えるのではなく、食べるのだ〟と悟りました。」

×

私は、よく皆さんから「説教が難しい」と言われて悩んできましたし、今も悩んでいます。もちろん、不信仰の故と思っていますが、その方は「信仰のない私をお助けください」（マルコ9：24）の言葉に依り頼んで、泥沼の道を祈りにより超えています。しかし、もう一方で、語彙の貧しさだとつくづく思っています。これも致し方ありません。でも、こどもたちと一緒にいると、すごく励まされます。彼らの言葉は、概念や理念ではなく、表情を含めて心のうちから噴き出してくるからです。子どもは神の国に近い、と思わざるを得ません。（岩井記）